

アフリカ-ジンバブエ-を通して世界に目を向ける

服部博志 相模原市立中央中学校

実践教科：総合的な学習の時間、道徳、集会等・6時間

対象学年：2学年、支援学級 対象人数：257名、支援学級7名

(1) 実践の目的

今の子どもたちの多くは、テレビやインターネット等からサッカーや野球などの情報を得ることによって、世界の国々への興味・関心を高めている。

しかしアメリカやヨーロッパと違い、情報を得る機会の少ないアジアやアフリカの国に対しての知識が少ない生徒に、今回のジンバブエ研修で感じたことを伝え、様々な世界の国々に対して興味・関心を持ち、自ら調べてみたいという意識を持たせ、自分自身の生活や価値観を豊かにするきっかけを与えていきたい。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 (学年対象) 257 人 ジンバブエ活動報告 ジンバブエがどこにあるか知り、ジンバブエという国を覚えさせる	地図を見せながらジンバブエがどの位置にあってどのような交通手段で行ったのかを話す。そしてどんな国であったか簡単に話す。	大きな世界地図
2 限目 (学年対象) 257 人 ジンバブエで感じたこと ジンバブエで撮った写真とビデオを見ながらそこで感じたこと、学んだことを伝え他国に興味を持たせる	(1) 前回話をしたことをもとにデジタルカメラで撮った写真やビデオをプロジェクターで見せながら1つ1つアフリカ ジンバブエの環境を説明し、そこで感じたことを話す。 (2) 本時の授業を通してアフリカ ジンバブエや他国に対してどの程度興味を持ったかアンケートを書かせる。	(1) プロジェクターと PC とビデオ (2) アンケート用紙
3~5 限目 (学級対象) 38 人 ジンバブエについて調べ	(1) PC 教室と図書室を使ってジンバブエについて調べてみる。そして	(1) PC 教室とレポート用紙

<p>てみよう（ジンバブエはこんな国だ！）</p> <p>ジンバブエについて PC や図書の本を使って調べ、わかったことをレポートにまとめ発表させる</p>	<p>調べた内容をレポート用紙にまとめる。</p> <p>(2) 班を作って発表する順番を班内で決め一人 2～3 分で発表する。</p>	
<p>6 限目</p> <p>(のぞみ学級対象)</p> <p>情緒と知的を含む 7 人</p> <p>国旗を通してジンバブエを知ろう</p> <p>国旗を通してジンバブエを知り、地図を使ってジンバブエがどこにあり、どんな所か PC やビデオを使って学ばせる</p>	<p>(1) 国旗を通して世界にたくさんの国があることを知り、アフリカ ジンバブエの国旗を見つける。</p> <p>(2) 世界地図を見ながらジンバブエがどこにあり、どうやって行ったかを説明する。</p> <p>(3) ビデオや PC で写真を見ながらジンバブエという国がどんな国であるかを知る。</p>	<p>(1) 世界の国旗一覧</p> <p>(2) 大きな世界地図</p> <p>(3) PC とビデオ</p>

(3) 実践授業の詳細

1 限目 ■■■ジンバブエ訪問報告■■■

2 学年、生徒全員を対象に体育館でこの夏アフリカのジンバブエという国に行ってきたことを報告した。ジンバブエまでどのような手段で行ったか（飛行機に乗ってどこで乗り換えたかなど）、どれくらい時間がかかったか、どのような所を見てきたかを大きな世界地図を使って説明した。また何をしてきて、そこで受けたジンバブエの印象について簡単に話しをした。

※南アフリカでデジタルカメラとビデオカメラの盗難にあったことを話し、旅行の時には気をつけるようにということと、自分で撮った写真がすべてないという話をした。

《生徒の反応と自身の所感》

マイクを持って地図を使うだけの内容であったが、生徒はとても興味があるようで良く聞いていた。やはり（私もそうであったが）アフリカの情報は少ないようで、ジンバブエは年中暑く、ジンバブエ人は槍を持ってピョンピョンとジャンプしているイメージがあったようだ。また当然経済も貧しい国という印象があるようだ（この印象は生徒だけでなく職員も同様であった）。首都にはビルもあるし、人は全員服を着ているし、スーパーで買い物をしているという、衝撃を受けていたようで、次回行うスライドを見せながらの授業を行う良い導入となった。

2 限目 ■■■ジンバブエで感じたこと■■■

2 学年、生徒全員を対象に体育館で行った。パソコンとビデオデッキとプロジェクターを用意して、同行した人達から協力してもらい写真を集めたことを話し、写真をスライドのような形で見せながら説明をし、そこで感じたことを話しながら 50 枚程度の写真を見せた。

最初はジンバブエの国旗から見せその色の意味を説明し、ジンバブエの気候や星空の美しさ、町並みの様子、買い物の風景そして夜の停電でロウソクが欠かせないなど、文化的なことや都会と田舎の暮らしのギャップから導入し、世界遺産であるグレートジンバブエやビクトリアフォールズの話をした。そしてジンバブエの学校の集会や授業風景や時間割、そして学校訪問をして私も実際に授業をしてきたこと、ジンバブエの学校で見たエネルギッシュな子供たち、一生懸命勉強して明るく生活している子供たちの写真を見せながら1つ1つに対して説明やそこで感じたことを話した。その後ビデオで同じ中学生のジンバブエ人が受けていた数学の授業（単元は連立方程式でやはり日本でも中学2年生で習うもの）と私が行った理科の授業風景、そして踊りや歌の様子を見せた。最後に写真やビデオでは伝わりづらい部分、エイズ問題や貧富の差、ストリートチルドレンなどのことを補足した。そしてどこの国でも子供の持っているエネルギーや情熱といった気持ちは同じであると伝えた。

まとめとしてこの授業を受けてどのような印象が残ったかなどのアンケートを実施した。
※その生徒が答えたいいくつかのものを最後に資料として添付しておきます。

《生徒の反応と自身の所感》

生徒の多くが今まで見たことのない自分の知らない世界に興味を持ってスライドを熱心に見ていた。プロジェクターを使った一方通行の方式だが、写真やビデオを見せながら効率よく伝えたいことを話すことができたと思う。導入5分、展開45分の長い間であったが（まとめとアンケートを書かせる時間は15分、7校時ということもあり、帰りの会を学年全体ですることにより65分間の時間を確保した）その方法で生徒を飽きさせずに授業ができたのではないかと感じている。

アンケートの結果を見ていくつかのことがわかったが、やはりほとんどの生徒が興味を持っている国は、野球やサッカーを通じてアメリカかヨーロッパの国であった。アフリカという答えもあったがやはり数は圧倒的に少ない。ただこの授業を通してほとんどの者が色々な国に興味を持ったと答えてくれたのでこの開発授業の価値を見つけることができた。そして自分自身がその国へ行ったことによりそこで感じた体験と数枚の写真があれば開発教育の導入がいつでもどこでもできることも感じた。「百聞は一見にしかず」である。周りの生徒に理科という担当教科の他に伝えることができる新しいツールを見つけたことに、とても達成感を感じた日であった。これからは他のやり方でも開発教育の導入ができるように工夫をしていきたいと考えている。

3～5 限目 ■■■ ジンバブエについて調べてみよう ■■■

自分が担任をしている学級を対象に行った。

3校時目はPC教室と図書室を使つての調べ学習である。A4の紙1枚に、ジンバブエについてわかったことをまとめさせた。興味のある生徒は2枚書くものだったが、最終的に廊下に掲示したいと思ったことと多くの生徒が最後まで完成させること考えそのようにした。

4校時目は教室で調べたものをまとめさせた。終わらなかった者、さらに詳しくまとめたい者は家に持って帰って行った。

5校時目は発表である。50分だけということもあり、生活班の6班の中での発表である。司会

を班長にさせ、発表の順番を決めさせ進行をさせる。一人の持ち時間は2,3分程度で、発表が終わると必ず拍手をする約束、1,2人感想を言うことなどやり方を最初に説明した。また、少し発表の練習時間を与えてから開始した。

※生徒が作成したレポートのいくつかを最後に資料として添付しておきます。

《生徒の反応と自身の所感》

ジンバブエやショナ語などいくつかのキーワードを伝えると生徒はすぐに応用してPCでネットを使いこなし、国旗や世界遺産や生活など、わかったことをうまくまとめていた。最初はどうも調べられないのでは？また50分では足りないのでは？と不安もあったが、中学2年生ぐらいだと（実施したのが11月）ネットで必要なことを調べ、それをA4サイズの紙にまとめることができる者が多いこともわかった。PCでの調べ学習も友達と情報交換をしながら、普段の授業では見せないリラックスした様子で行っており、レポート作成も色ペンをうまく使いながらきれいにまとめていた。発表も和やかな雰囲気です班長中心に行っていた。本来なら全員の前で一人一人が発表をすることが理想的なのかもしれないが、時間が限られていることもあり、小規模で班の中での発表でも十分ひとにものを伝える良い練習になると考えこの形式にした。班員以外のレポートは廊下掲示という形で見るようにした。特に感想などは書かせなかったが、教室に貼ってあるハンガーマップを眺めている姿をしばしば見ることができ、世界の国々に興味を持ったと感じている。

6 限目 ■■■ 国旗を通してジンバブエを知ろう ■■■

この授業は単独でのぞみ学級という通称を持つ支援学級で行った。まず知っている国を聞き、アフリカのジンバブエに行ってきたことを教え、大きな地図を見せてジンバブエがどこにあるのか、どのような交通手段で行ったかを話した。そして世界のすべての国旗が載っているカラーのプリントを配り、知っている国の国旗を聞いてみた（以前に国旗の勉強をしていたことを知っていたこともあった）。

次にPCに集って用意していたジンバブエの国旗を見せ国旗の載っているプリントのどれと同じかみんなで探してみた。そしてそのままPCを使ってジンバブエに住んでいる人や町の風景、訪問した学校の様子の写った写真を見せながら話しをした。次にジンバブエの歌や踊り、学校の様子をまとめたビデオを見せ、最後に「僕がこの夏に行った国はどこでしょう？覚えていますか？」と質問をして全員が答えられるという形でまとめた。

《生徒の反応と自身の所感》

記憶の定着が難しい生徒もいてなかなかジンバブエとう名前を覚えることができなかったが、何度も同じ質問をすることで楽しく元気に授業ができたと思う。会話をほとんどしない生徒や話をしている最中、地図に寄ってきてまじまじと見ている好奇心旺盛の生徒がいたりとまちまちではあるが、写真やビデオを一生懸命に見ていた。特に肌の黒い人達がたくさん写っている写真を見てとても驚いていた。アフリカはライオンやシマウマといった動物がたくさんいる所だということを知っている者も1人いて、その生徒はますますアフリカという国に興味を持ったようである。のぞみ学級全体でもこの授業の効果はあったようで、最近廊下で会うと「ジンバブエのお兄

さんだ」と言われるようになった。

(4) 全体を通してのまとめ

この開発教育授業を通して、多くの生徒に対して世界の国々への興味を持つきっかけをつくることができたと感じている。生徒の周りにはたくさんの情報が流れているが、きっかけがなければそれを目にすることはできない。しかしその情報と生徒の持つ興味をつなげる機会があれば、生徒はその体験をもとに世界を見る眼が養うことや、国際感覚を身に付けることを自ら開発する力をつけ、新しい自分の可能性を見いだすことができる。

この開発教育授業を通して、自分が想像している以上に生徒は興味を持ち聞いている姿を見ることができた。生徒の感想など見ると、以前から他国でのボランティアに興味がある生徒がいたこと、またこの授業を通して世界の国々に興味を持ったなどが書いてあり、世界の情報を発信する重要性和手応えを感じることもできた。

これからは JICA が世界でどのような活動をしているかなど、もう少し私自身も勉強して、この海外研修をきっかけに、この授業に興味を持った生徒へさらに詳しい情報の提供ができるようになることが今後の課題であると感じる。最後にそのきっかけを与えてくださった横浜 JICA の方々に感謝の気持ちを記す。

資料：実践授業風景と生徒アンケートと生徒レポート



↑ 1 限目①



↑ 1 限目②



↑ 2 限目①



↑ 2 限目②



↑ 2 限目③



↑ 2 限目④



↑ 2 限目⑤



↑ 2 限目⑥



↑ 2 限目⑦



↑ 3 限目①



↑ 3 限目②



↑ 4 限目①



↑ 4 限目②



↑ 4 限目③



↑ 4 限目④



↑ 6 限目①



↑ 6 限目②



↑ 6 限目③



